

Roof Plus×地銀GXコンサルモデル

取引先に紹介するだけで「ESG融資拡大×非金利収益×地域貢献」を実現

Roof Plusは、地方銀行が「環境設備資金をダイレクトに貸す」のではなく、取引先のGX化(脱炭素経営・電力料金削減)を支援しながら自らのESG資産を拡大できる仕組みです。地銀が行うことはただ一つ——「取引先にRoof Plusを紹介する」こと。それだけで、導入した環境設備と同額のESG融資をAA格のリース会社に拡大、非金利収益の確保、地域経済への波及効果という3つの成果が同時に生まれます。



提携の本質

取引先のGX化支援を通じて、地銀自身のESG資産を拡大する新たな役割



シンプルな実行

取引先にRoof Plusを紹介するだけで、複雑な業務負担なく成果を創出できる仕組み



三位一体の成果

融資・収益・地域貢献が同時に実現する画期的なモデル

取引先にRoof Plusを紹介するだけで得られる三大効果

Roof Plusの提携により、地方銀行はRoof Plusの紹介という単純な行動から、経営基盤の強化と地域経済の活性化を同時に達成できる。以下の3つの効果が、リスクを取らずに実現されます。

1

ESG融資の拡大

Roof Plusの設備割賦はAA格リース会社が実行。地銀はそのリース会社に**15年ESG融資**を提供する。高格付け先への長期安定運用により、自己資本比率を圧迫せず、ESG融資残高を拡大できる。年間30～50億円の融資拡大が見込まれる。

2

非金利収益の確保

紹介先EPCから**紹介手数料**を獲得。融資以外の新たなGXコンサル収益を新設し、支店別収益源として機能する。年間約1.5～2億円の非金利収益が期待できる。

3

地域経済への波及効果

地元EPC・工事会社の活用により施工・雇用・資金が地域内で循環。金融×施工×雇用の好循環を生み、自治体施策と連携。年間約30億円の地域波及額を創出し、中期的に約800～1,000社のGX導入企業を支援する。

取引先に、「**Roof Plusを紹介するGXコンサル**」で、銀行のESG資産・収益・地域の富が拡大するモデルです。

リスクゼロで地域を動かすGXモデルの全体像

Roof Plusの仕組みは、地銀が銀行リスクゼロで地域のGX化を推進できる設計となっています。融資先はAA格リース会社であり、支店業務負担もゼロ。紹介のみで、契約・工事・保証はRoof Plus・EPC側が対応します。

経産省「GX実行計画2023」、金融庁「サステナブルファイナンス方針2022」、環境省「Jクレジット制度2024」など、主要政策との整合性も確保されており、地銀が「GX金融の主角」として地域を動かすための実務的な仕組みです。

30億円

ESG融資拡大

年間最低想定額

1.5億円

非金利収益

年間想定額

1,000社

GX導入企業(中期計画)

5年間支援数



地銀

リース会社むけESG15年融資提供



AA格リース会社

信用補完型 設備割賦実行(Roof Plus)



中小企業・福祉法人

GX導入・CO₂削減・電力料金削減



地元EPC・工事業者

施工・地域循環

経営企画・GXコンサル部門へのメッセージ

Roof Plusは、地銀が「GX金融の主角」として地域を動かすための実務的な仕組みです。紹介するだけでESG融資残高が増え、取引先のGX支援で非金利収益が生まれ、地域内で施工・雇用・富が循環する地域共生型取り組みです。「リスクを取らずに地域を動かすGXモデル」——それがRoof Plus提携の新たな価値です。